鳥類　＜スズメ目　ホオジロ科＞　　愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（越冬）　（国：絶滅危惧Ⅱ類）
AVES　＜PASSERIFORMES　EMBERIZIDAE＞　　AICHI：VU（Win）　（JAPAN：VU）

コジュリン　*Emberiza yessoensis* (Swinhoe)

【選定理由】

日本を含む極東の一部で局地的に繁殖し、世界的にみても生息数の少ない種である。県内における繁殖記録はないが、一時は繁殖も可能な環境が存在していた。冬鳥として沿岸部の干拓地や埋立地のヨシ原、平野部や丘陵地にある草地やヨシ原に生息しているが、かつての県内には広い面積のヨシ原や草地が沿岸部の各所に存在しており、標識調査の捕獲によって生息が確認される例も少なくなかった。近年はこうした環境の消失が顕著で、県内で越冬が可能な場所は大きく減少している。

【形　態】

全長 14.5cm。雄の夏羽は頭部全体と上胸が黒色、雌は頭部が暗褐色で汚白色の眉斑と顎線がある。背は赤褐色で淡褐色と黒色の縦斑があり、胸は淡い褐色で腹は白い。腰は赤褐色。嘴はまっすぐで、色は夏羽で黒く冬羽では肉色。

愛知県西尾市, 2002 年 3 月 17 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

冬期に伊勢・三河湾沿岸の干拓地や埋立地、平野部や丘陵地の草地やヨシ原に生息する。

【国内の分布】

本州中部以北の内陸や沿岸、および九州で繁殖するが局地的で、本州中部以南の沿岸部や平野部で越冬する。

【世界の分布】

中国北東部、ウスリー、南千島、日本で繁殖し、北方のものは冬期に移動して朝鮮半島南部、日本、中国南東部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

越冬期に見られる県内の生息環境は、ヨシ原やヨシ類を含む疎らな草原であることが多い。数羽の群れで生息し、昆虫や草の種子などを採餌する。ヨシ原に生息する近縁種にオオジュリンがあるが、オオジュリンがジュィーンと鳴くのとは異なり、チッ、チッと細い声で鳴く。ヨシ原や草原の中に潜って生活するので姿を見ることは難しいが、その声で存在を知ることもある。

【現在の生息状況／減少の要因】

以前のような広いヨシ原や草原が少なくなったことで、標識調査のように捕獲して確認されることはなくなっている。県内で以前にどの程度の数が生息していたのか正確には不明であるが、過去に伊勢・三河湾沿岸の干拓地や埋立地、内陸に存在していたヨシ原や草原の各所で確認されていたことと比較すれば、近年越冬が確認される場所はごく限られており、その面積もかなり狭くなっている。生息環境減少の要因は、埋め立てなど旧来の開発行為が進行したこと以外にも、太陽光パネルや風力発電の設置など、新しい開発行為が始まったことなども大きく影響している。

【保全上の留意点】

干拓地や埋立地に残されている遊休地に、過去に広く存在していた湿地の環境を復元することで、絶滅の危機にある野鳥を呼び戻す努力が必要である。

【特記事項】

国内には本種より希で、世界的には分布の広いシベリアジュリンという近縁種があるが、県内の 2001 年以降の記録をみると、本種とシベリアジュリンは、全て同じ年にほぼ同じ場所で確認されている。生息できる環境が狭まり、限られた場所に集合していることが推測される。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.374. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）